



●ネットヨタ静岡の皆さん
丸子公園(本字丸子町)



毎年、近隣の町内の人たちを招いて、本社すぐ脇にある「丸子公園」で納涼祭を開催しているネットヨタ静岡。社員の皆さんが、フランクフルトや綿菓子をせっせとこしらえ、日頃の感謝とともに地域の人たちに振る舞います。子どもから年輩の人までたくさんの方が訪れる、地域に密着した身近なお祭りで、地域の人たちと社員とのコミュニケーションの場ともなっているそうです。



●石川明さん
我入道公園(我入道)



芹沢光治良記念館に隣接した我入道公園を、日頃から気にかけてくれている石川さん。週に数回、朝8時頃から清掃活動を続けて10年以上になるそうです。「ひとつは自分の健康のため。海に近くて、気持ちのよい公園だから、子どもたちがまた来たいと思ってもらえたら嬉しい。80歳過ぎても元気に続けられるよう、楽しみながらやってるよ」と教えてくれました。



●芹沢光暁さん(社員)
港口公園(本字千本)



打楽器カホンを自作して、公園でみんなで打ち鳴らしたら楽しいよね!と集まったチーム「TAPPERS」。公園の楽しみ方もDIYして、自分たちで創り上げていくこともまた楽しいと教えてくれました。主宰の芹沢さんは「騒音」には気を遣うけれど、カホンの音に子どもたちが駆け寄ってくるという光景を目の当たりにし、いつの日か公園で100人集まってカホンを叩くことを夢見ているそうです。



●青木淳子さん(主婦)
大岡公園(大岡)



「子どもも親も、公園を利用する人たちと適度にコミュニケーションを取りながら、上手に成長していけたらいい。近所の公園ってそういう場所だと思います」と話すのは、3人のお子さんと大岡公園を訪れていた青木淳子さん。「当たり前のことですが、ごみは必ず持ち帰るのが家族のルールなんです。私たちにとって大切な場所ですからね」と教えてくれました。



●萩原諒さん(社員)
せせらぎ公園(玉江町)



奥さんが用事で出かけて子どもと二人きりになると、父親にとって「家からすぐ近くの公園」は、親子の時間を過ごすのに重宝する場所といえそうです。「公園なら、安心して子どもが遊んでる姿を遠目に見守っていられます。休日の父親には嬉しいですね。もっと安心して水遊びができるように、今度ブラシを持ってきてせせらぎを掃除してみようかな」と萩原さん。



●ブルーグリーンクラブの皆さん
中央公園(大手町)



中央公園の花壇は、市が管理するものだけでなく、花が好きなお人や会社の仲間などでつくられている様々な団体によって手入れされています。そのなかのひとつ、ブルーグリーンクラブの高橋さんは、「多くの方が行き交う公園ですから、きれいな花を咲かせたいですね」と汗をぬぐいます。季節ごとに公園を美しく彩る花には、いろいろな人の想いが詰まっています。



わたしと公園。

公園には、人の数だけ
楽しみ方がありました。

●高橋さん、松川さん、佐藤さん、笹原先生(沼津工業高校)
香貫公園(市場町)

皆さんは、市内のいくつかの公園に、木製のテーブルとベンチがちょこんと設置されているのを見かけたことはありませんか?これは沼津工業高校建築科の生徒が、卒業制作として、年に数基を市内の公園にプレゼントしてくれています。「学校帰りに、友達と話していくのにちょうどいい。本当は女の子と一緒に時間を過ごせたらもっといいんですけどね」と笑う高橋さん。「卒業した先輩たちに感謝です。自分たちも先輩にならって、多くの人に使ってもらえる卒業制作にしたいですね」と教えてくれました。公園とそこにあるテーブルやベンチが青春のひとつを彩っているのは、昔から大きくは変わらないようです。